2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/9/30

団体名	NPO法人関西国際交流団体協議会	活動タイトル	社会課題を解決するためのこどもプラザ

望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）

●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	海外にルーツを持つ人々と、地域社会の住民との関係で重要なのは、地域社会の活性化に向けて「多文化共生コミュニティ」を地域に根付かせるため、互いに協力し合うことである。コミュニティを根付かせるためには、海外にルーツを持つ人々が地域に根付くためのサポートが必要で、また一方で地域住民は彼たちの文化に触れ、多様性のある文化を理解することから始めなければなりません。隣人として地域社会に移住してきた新しい仲間を、コミュニティの一員として受け入れ、地域社会に馴染んでゆく過程を温かいまなざしで見守る社会づくりが大変重要と考えています。
●団体の社会的役割(ミッション)	当協議会の社会的な役割(ミッション）は、地球的規模および地域社会の問題解決のために、市民団体グループなどNPOのプラットホームを構築することである。（市民を含め様々なアクターが集い・出会うプラットホームを構築し、社会的なインパクトを生みだす担い手づくりを通じて、新しい持続可能な市民社会の実現に寄与します。）社会問題となっている困難に直面している外国にルーツを持つこどもたちをサポートすることも、地域社会が抱えている問題解決に寄与することでもあります。
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源：事業を企画し実施できる人材、こどもたちの立場に立って対応できる日本語支援スタッフ、地域とのコミュニティと連携を取れる人材が、活き活きと活躍し、事業のバランスを考えながら事業を推進できる。 ●望ましい物的資源：事業スペースを安価に確保、事業運営の情報システムの構築、こどもたちを動機づけできる教材、等の確保等について、企業及び行政等との連携を強化し、事業を下支えできる支援のネットワークが構築されている。 ●望ましい活動資金：制約の少ない自主財源（会費、寄付、事業収入）を、協議会をスムースに運営できる程度に確保したい。同時に、自主事業に対する企業等の助成金及び補助金を長期的（3年程度）に確保できる信頼関係を構築する。 ●望ましい情報：「共生する多文化コミュニティ」事業を推進する過程で培ったノウハウを活かしながら、 １）事業を支える優秀な人材の確保（元教員、学生等のボランティア等）、２）こどもが置かれた状況・環境等の最新の情報収集、 ３）こどもたちが無理なく学校生活に慣れるための教育委員会事務局、小学校の校長会、大阪市市役所及び区役所等の行政との連携及び情報収集等の情報ネットワークを構築する。大阪市内で必要とされる地域に新たな拠点を増設する、という事業の水平展開が可能な状況を創りあげること。

■活動風景

こどもプラザ「ハロウィン」イベントの集合写真

■活動報告

外国にルーツのあるこどもたちが日本語を話せないために、学校で友達が出来ず孤立し、居場所がない等の問題に直面しているため、正しい日本語の習得、宿題のサポート、居場所づくりの支援を行ってきました。現在のこどもの登録人数は9名、保護者8名となっています。
また、保護者も、学校からの連絡及び通知について理解できるレベルまで日本語の習得支援を実施し、同時に日常生活で必要な災害についての知識習得、生活の問題点の解決を行ってきました。
ボランティアマニュアルの作成と研修については、マニュアルの読み合わせ等を行いながら、ボランティアの質の向上を目指しています。
地域社会とのふれあいを促進するためのツールづくりは、地元のイベント等への参加により交流を深め、また新たに大阪エヴェッサとのスポーツ交流も取り入れながら地域及び社会との交流を深めています。
　こどもプラザ事業のPRのためにSNSを使った情報発信、HPの充実を図ることによりPR効果を高め、その結果こどもプラザの見学者も多くなっています。

■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)

１）社会課題を解決するための「こどもプラザ」の運営
　※対象者：外国にルーツのあるこども及びその保護者
①事業実施期間
　・令和5年9月1日～令和6年8月31日まで
②実施回数
　　・外国にルーツを持つこどもの日本語習得実施回数　　49回（予定48回）
　　・こどもたちの保護者の日本語習得実施回数　　49回（予定48回）
③参加者数
　　・外国にルーツを持つこどもの延べ参加人数　315　人（予定480人）
　　・こどもたちの保護者の延べ参加人数　　263　人（予定480人）
④運営内容
　　・運営日時：毎週水曜日　17:00～19:00
※ボランティアの拘束時間　16:30～19:30
　　・対象者：a）大阪市在住の海外にルーツを持つこどもたち（Newcomer）
　　※主に小学生が対象　※中学生も2名不定期に参加
　　b）上記a）の保護者
　⑤参加費：無料（保護者も無料）
２）地域社会とのふれあいを促進するためのツールづくり

こどもプラザの日本語習得の風景

■事業を通じて得られたノウハウ

１．外国にルーツのあるこどもたちを指導する運営の情報システム等は、運営のノウハウとして残るので、このノウハウを活かし、将来的には分配団体として社会問題解決に利用できると考えます。
２．教育委員会等行政との連携は、今後もこども支援について有意義なコネクション及び情報ネットワークとして、事業の水辺展開に活用できるものと考えます。

■望ましい社会状況を達成するための課題

１．地域社会を活性化するためには、積極的な交流イベントなどの開催が必要となりますが、細分化された交流（少人数の交流）が一般的となっているため、知る人ぞ知る、というものが多く、なかなか参加できないようです。このため、多くの方が参加できる地元の夏祭り等に外国の方々も参加できる受け入れ体制の整備が必要となります。
２．外国からの新しい隣人として受け入れるには、住民一人ひとりの受入マインドの醸成が必要となります。

■活動成果のアピールポイント（自由記入）

この1年間の活動を通じて	誰も取り残さないひらかれた「こどもプラザ」	を達成しました。

■受益者の具体的な変化（自由記入）

１．来所当初は控えめではにかんでいましたが現在は大きな声で明るくふるまうようになりました。
２．保護者は、日常の失敗談をジョークを交えて話すようになりました。